

化学教育 徒然草

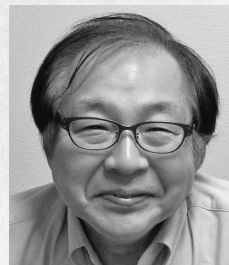


— 化教誌ファースト —

NAKAMURA Satoshi

中村 聡

東京工業大学生命理工学院 教授
平成 29～30 年度化学と教育誌 編集委員会委員長



巻頭言

今から 20 年くらい前に化学と教育誌（化教誌）の編集委員を拝命したのを機に、それ以来ずっと化教誌も購読し続けている。当時から比べると、冊子サイズが大きくなり、発行頻度も隔月刊から月刊となった。しかしながら、最も大きく変貌したのはその内容と思う。以前は化教誌と、化学と工業誌（化工誌）の内容は明確に切り分けられていた。ところが最近の化教誌は、もちろん初等中等ならびに高等教育機関での化学教育に資する内容を中心としてはいるが、化工誌同様、化学にまつわる最新のトピックスを取りあげ、それを専門外の読者にわかりやすく解説している。初等中等教育機関で教鞭を執る読者が最新のトピックスに触れることで、自身の教育に対するモチベーションをさらに向上させ、またそれを生徒に教授することで、生徒に対して化学をより深く学ぶ動機づけをしていただきたいというのが狙いである。

2 年前より、ふたたび化教誌の編集に携わることになった。この 2 年間だけを見ても、「Something New」という新企画が立ち上がっており、化教誌は進化を止めていない。「アメリカファースト」、「都民ファースト」。いずれも最近よく耳にする言葉であるが、「ファースト」の意味はそれぞれ異なる。「化教誌が一番おもしろいね」といわれる雑誌を目指したい。そんな思いを込めて、本稿に「化教誌ファースト」という表題を付した。今後も読者の役に立つ記事をタイムリーに掲載するために、①各支部化学教育協議会のご協力を得て、各支部での草の根的取り組みについて積極的に紹介する、②投稿原稿に関し、迅速な決定が可能となる審査体制を確立する、③化工誌との連携を強化する、といった取り組みに挑戦していきたい。

昨年、娘が出産し、おじいちゃんになった。ときおり遊びに来る孫を見て、日々の成長を楽しんでいる。若いときには子育てを楽しむ余裕はまったくなかったが、孫となると客観的に見ることができるのであろう。同様なことが、教員と生徒・学生の関係にもいえるのではなからうか。日々、カリキュラムの消化に没頭していると、毎日濃密に接している生徒・学生の成長に気づかないものである。少し視点を変えて、最新のトピックスを生徒・学生に紹介し、ともに未来の化学を考えることで、彼らの成長が見えてくるのかもしれない。そんな際に、ぜひとも化教誌をお役立ていただきたい。

[連絡先]

226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259 (勤務先)